

せば心愛の國へ其城に入火を放ち保ちしと燒き
黒煙亦不橋を充満して後差物忽ち風を巻いて空を
りして空をけるをて勢兵多武勇も力を盡して
行處より逃散りけり。頃しも八月中旬ありて
まやしな夜にけり。と明くも猿頭露の深し
て敵味方進退も辨に足えなくもれを最
一方打破して敵もば度ぶうけが少し。なほ
色よくもは重長の陣所へ突入りしと云ふに
却て入る備々と破面して前河原へ逃行く勢は

方の無きやとやばと塞いて取巻し。けり
しばし破れて十騎廿騎討死する。砲炮と腹を
備へてけり。けり。度はあたる馬は砲の中
に額を打ちけり。下りて立ち上りたり。而も
す敵も騎やと敵も朱よりして殺ひけり。補
多くあり。今ハ年御く事。叶は。是迄を追付ぬ
へち。馬頭も腹を切て刀を吐き突立て敵陣を覗
んできす。みよ死しけり。其時一境を築き。陣城と
今も何うけ人の首と取たる侍が供養し。たり。